

令和6年度 第1回 牛津高等学校 学校魅力強化委員会（学校運営協議会）議事録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第1回学校魅力強化委員会（学校運営協議会）の会議録を公表します。

開催日 令和6年5月8日（水） 於 牛津高等学校会議室
開催時間 17:00～18:10
出席者数 委員10名 事務局3名 教育振興課1名 SAGA コラボ校内委員2名
出席者 <魅力強化委員>
長戸委員、高元委員、野口委員、横尾委員、七浦委員、大坪委員
ドジソン委員、嘉村委員、山本委員、江頭委員（校長）
<事務局>
鍋島（教頭）、古川（事務長）、池田（主幹教諭）
<SAGA コラボ校内委員>
峯（家庭科主任）、中島（魅力化コーディネーター）
<教育振興課>
細國指導主事

【会議の内容】

- 1 開会
- 2 学校長挨拶
- 3 教育委員会事務局挨拶
- 4 任命状交付
- 5 参加者自己紹介
- 6 協議

（1）会長・副会長の選出（教頭）

横尾委員から、会長に長戸委員、を推薦する提案があり、承認される。副会長は長戸会長から高元委員が指名され承認される。この後、長戸会長が議長として登壇し、進行を交代する。

牛津高校学校魅力強化委員会の3つの部会について（主幹）から説明

ア) 昨年同様3つの部会（地域連携部会・魅力発信部会・学校評価部会）を設置し、学校評価部会委員は教科書の選定委員を兼ねること、今年度も部会ごとの開催ではなく、学校魅力強化委員会の中で部会の協議を行うことを提案し承認される。

イ) 部会委員及び部会長について原案のとおり承認される。

（2）令和6年度牛津高校 SAGA コラボレーション・スクール事業計画について

令和6年度事業実施計画について（主幹）から説明《別紙資料》

ア) 取組テーマ

イ) 現在の学校としての課題及び目標と成果指標

ウ) 令和6年度の実施計画

エ) 所要経費

オ) 校内組織体制

- (委員 1) 県外からの志願者を増やすために、地域で受け入れをしてくださいという話が以前にもあったが、行政側である県と小城市の予算だてはどのようなになっているのか。
- (指導主事) 有田工業高校で地域未来留学という事業を行っており、全国から生徒を受け入れており町で受け入れをしている。生徒は下宿やシェアハウスで生活をしている。町から支援金という形で毎月 3 万円の補助を出している。内訳は 3 万円の 3 分の 1 が県からの補助である。このように県が一部負担しているが、基本的には町が中心になって支援をしている状況である。
- (委員 1) 下宿などで受け入れた場合、3 万円の補助があるが、残りは受け入れをした家庭が支払っているのか。
- (指導主事) 残りの分は下宿している生徒が支払うことになっている。
- (委員 2) 小城市としては、昨年このような話を受けて庁内で情報共有をし、受け入れができるかどうか検討をしているが、予算的な対応はまだ行っていない。
- (委員 1) 県と小城市でしっかり話し合いをしていただき、その後、地域に示してもらいたい。そうすれば地域としても色々なお手伝いができる。
- (会 長) 有田町の場合、下からモーションをかけたのか、上からかけたのか。
- (指導主事) 有田の場合は県と町が協定を結んでから始まっている。
- (会 長) 早く取り掛からないと次の生徒募集に間に合わない。上から来たほうが地域は動きやすい。受け入れ先を探すにも裏付けがないと探しにくい。
- (委員 1) お店プロジェクトに関して、店舗を見つけて店を出したいとあるが、牛津にセリオという店舗があり、一か所空いているスペースがある。以前、文化祭の展示などでも利用してもらっていたが、そこを牛津高校で積極的に利用してもらえないか。高校生からお金を取るつもりはない。調理はできないが、カウンターや椅子はあるのでカフェや洋服などの販売に使ってもらってもいいが。
- (会 長) 昨年度、北海道の高校で、部活でやっているレストランの話があった。昨年度、それをモデルケースにして我々は何ができるかという議論をしていたが、空き店舗の情報や具体的な話がなかったので議論が止まっていた。今回具体的な提案があった。調理ができないが、調理したものを運んできて販売は可能。取り掛かりとしてはいい話ではないか。
- (委員 3) 高校としては、今の話のようなことを進めることは可能なのか。
- (コーディネーター) 先日の牛津町まちづくり委員会でも今回の提案をいただき、学校内でも話題にいただいた、昨年度末の三笠高校の案件は現実的でない部分もあり、本校で実施できるかどうか疑問があった。今回提案のあったことについては、お店プロジェクト立ち上げる段階であり、本校がある牛津の町の中で、1 か月に 1 回、2 か月に 1 回という実施可能な形でやっていきたいと考えている。
- (委員 3) このようなことをメディアとかに取り上げていただくと、県外からも希望者が来るのではないか。
- (委員 1) 昔は松花堂弁当とかも販売していたが。
- (会 長) 松花堂弁当は今でも文化祭でも販売している。
- (委員 1) 産業祭でも出してみてもいい。
- (会 長) 産業祭と文化祭は昨年同じ日だった。
- (会 長) 松花堂弁当であれば、学校でつくって運んでくることはできる。

(委員 1) 今度の日曜日も牛津駅のオープニングイベントでジャンベ部が参加するなど地域との関わりは深い。

(会 長) 昨年度はこのような具体的な意見はなかった。

地域連携活動計画について(主幹)から説明<別紙資料>

(主 幹) 第2回魅力強化委員会でお店プロジェクトの実施に向けた具体的な議論を行いたいと考えている。

令和6年度の学校評価計画は原案のとおり承認される。

(3) 学校評価計画案について<別紙資料>

ア) 学校評価について(主幹)から説明

イ) 学校経営方針について(校長)から説明<別紙資料>

ウ) スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて(校長)から説明<別紙資料>

エ) 学校評価計画(案)について(主幹)から説明<別紙資料>

(委員 4) 年度末の委員による評価では、シートの中にある成果指標を基に評価を行うことになるが、成果指標の中に数値化できていないものがあるので評価が難しい。評価するために数値があるといいが。例えば、学校運営委員会のもとに校内委員会を年度当初に開催し体制を整えるとあるが、これは委員会を作ればよいのか。会議を何回するとか数値化できないか。

(主 幹) この指標は、今年度「お店プロジェクト」などを実施するにあたり、学校魅力強化委員会で議論したものを、校内委員会で実施できる形にしたいので、校内委員会を実働できるように体制を整えたいので項目に入れている。実働できるかどうかであって、会議を何回したとかは考えていない。

(委員 4) 業務改善のところで 項目が多く評価が大変だと思うが。数値目標がきちんとあるのでできると思うが、評価の時に協力をしていただきたい。

(会 長) これはあくまでも計画なので、これから変更もあり得ると思う

(委員 1) このような評価は正直にやってもらうことが大事、できなかったら、なぜできなかったのかを議論し改善する。これが一番大事だと思う。いじめがあっても0で報告するようなことはしないでほしい。体裁を整えず結果をそのまま出してほしいというのが希望。

令和6年度の学校評価計画は原案どおり承認される。

7 閉会

諸連絡で、第2回の魅力強化委員会は6月中旬、第3回は7月中旬に計画している。今後、日程調整のための連絡を行うこと。交通費の算定のための調査票の記入について連絡があった。

<資料>

○令和6年度牛津高等学校事業実施計画書(案)

○地域連携事業計画(案)

○学校経営方針

○スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて

○学校評価計画(案)

令和6年度 牛津高等学校事業実施計画書

1 取組テーマ

『地域に開かれた、愛される学校づくりプロジェクト』

2 現在の学校としての課題及び目標と成果指標

（1）地域等と協働した学校運営

① 課題

- ・魅力を発信するためには（特に県外には）魅力の目玉となるものが必要で、高校生たちが運営する活動の拠点を設立したい。
- ・「高校生お店プロジェクト（仮）」を実施するには、予算・人員等において地域の協力が不可欠である。
- ・地域と連携してプロジェクトに取り組むためには、実行委員会が必要である。
- ・地域と連携してプロジェクトに取り組めるだけの校内組織が必要である。

② 目標

- ・学校魅力強化委員会をコンソーシアム的な働きを持つものに移行し、校内組織を機能させ運営体制を整える。

③ 成果指標

- ・SAGA コラボ校内委員会を最初に開催し校内組織体制について共通理解を図る。
- ・コンソーシアムの運営規約の策定ができている。
- ・令和7年度のプロジェクトの計画が立っている。

（2）地域、企業、大学等と協働した実践的教育（魅力ある教育プログラム）

① 課題

- ・生徒の学習成果を知ってもらう場所が少ない。
- ・生徒の社会力をつける教育機会を増やしたい。
（社会力：人と関わり、社会を作っていこうとする力）
- ・育てたい力について学校全体で共有する必要がある。
- ・課題解決学習に向けての探究的活動が不足している。

② 目標

- ・地域と連携した活動の深化を図る。
→高校生たちが運営する活動の拠点を先に見据えた取り組みを展開
- ・Curriculum Policy に基づいたカリキュラムを検討し実施に向けて「育てたい力」の伸長を測るルーブリックを作成する。

③ 成果指標

- ・自分の学校を中学生に勧めることができると考えている生徒 85%、教職員 90%
- ・学校魅力化評価システムの『主体性に関わるウェルビーイング』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合を 65%以上
- ・学校魅力化評価システムの『社会性に関わる自己認識』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合 65%以上
- ・次年度評価に利用する「育てたい力」を測るルーブリックの完成

(3) 県内外からの志願者増

① 課題

- ・学校外の人に学校の情報が伝わっていない部分がある。
- ・遠方からの志願者のための下宿先がない。
- ・県外に対して情報発信する方法がない。

② 目標

- ・生徒の学習成果を体験してもらう機会を作る。
- ・家庭科という科目についての理解をしてもらう工夫をする。
- ・全国募集に向けて地域と協働して下宿先を確保する。

③ 成果指標

- ・志願者数を令和6年度選抜より10%増やす。
- ・県外からの令和7年度入学者数を2名以上にする。

3 令和6年度の実施計画

(1) 地域等と協働した学校運営

- ・校内組織委員会を年度初めに開催し学校魅力強化委員会との連携を図る。
- ・「高校生お店プロジェクト（仮）」の実施に向けて学校魅力強化委員会で協議する。
- ・学校魅力強化委員会に生徒を参加させる。
- ・学校魅力強化委員会をコンソーシアム的な働きを持つものに移行させる。

(2) 地域、企業、大学等と協働した実践的教育（魅力ある教育プログラム）

- ・Curriculum Policyに基づいたカリキュラムについてカリキュラム委員会で検討する。
- ・「育てたい力」のルーブリックを作成する。
- ・課題研究や起業家入門などの授業と地域をつなぎ生徒たちの活動を深化させる。
- ・地域連携講座を実施し、起業家入門Iの地域課題解決につながる流れを作る。
- ・家庭クラブ中心に、夢つむぎネットワークさんと協働して牛尾山の活性化に取り組み、2月末の梅まつりで各科の成果を示す。

(3) 県内外からの志願者増

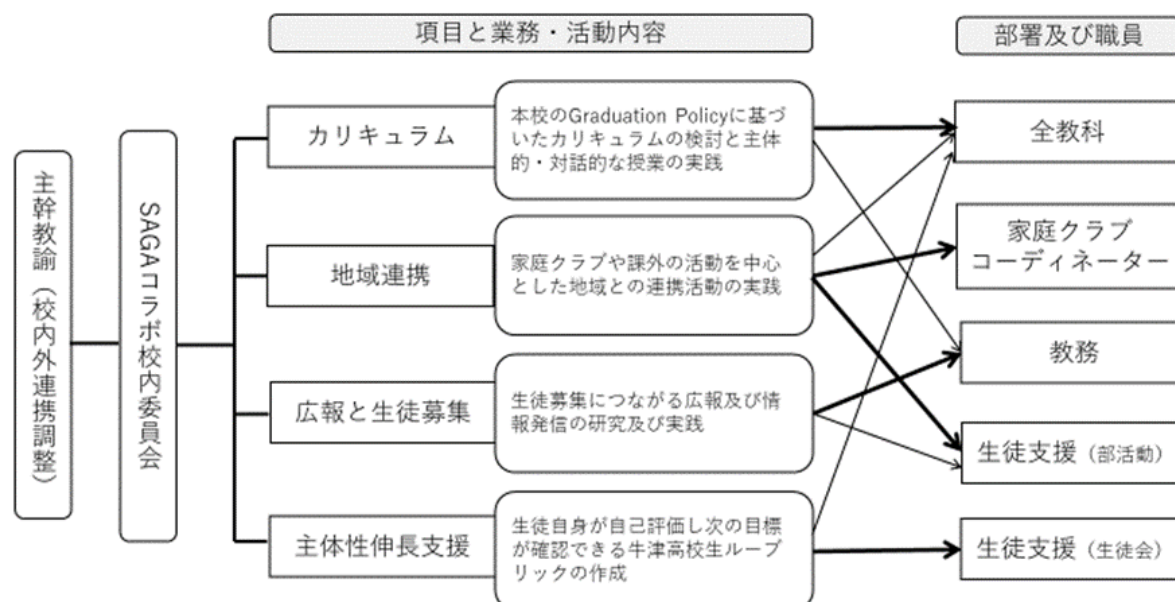
- ・小城市に協力してもらい、学校紹介の動画を作成し紹介の資料を充実させる。
- ・中学生への説明の内容に教科の魅力・体験の多さと学習効果・地域連携活動について入れる。
- ・近隣の中学校で家庭科の出前授業を実施したり、授業の補助をしたりする。
- ・食品調理科の授業の集団給食で外部の人に食べに来てもらう機会をつくる。
- ・空き家等の利用も含めて下宿先確保のために協力してもらえる組織を探す。

4 所要経費（計画）

様式2のとおり

5 校内組織体制

（1）組織体制



（2）校内委員

担当等	職名	氏名	校務分掌	メールアドレス
校内外連携調整	○主幹教諭	池田憲一		ikedakenichi2@education.saga.jp
カリキュラム	教諭	白川敦子	家庭科(生)	shirakawa-atsuko@education.saga.jp
	指導教諭	中尾恵子	家庭科(服)	nakao-keiko@education.saga.jp
	△教諭	峯 裕子	家庭科(食)	mine-yuko@education.saga.jp
地域連携	教諭 学校魅力化コーディネーター	桂原嘉子	家庭クラブ	katsuhara-yoshiko@education.saga.jp
		中島弘次		nakashima-hirotsugu@education.saga.jp
広報と生徒募集	指導教諭	永益和弘	教務	nagamasu-kazuhiro@education.saga.jp
主体性伸長支援	教諭	副田 洋	生徒支援	soeda-hiroshi@education.saga.jp
広報・予算担当	主査	友田純子	事務	tomoda-junko@pref.saga.lg.jp

※ プロジェクト主任○、副主任△。

(様式2)

学校名

牛津高校

令和6年度 SAGAコラボレーション・スクール（SCS）所要経費（計画）

経費区分	令和6年度予算額
1. 報償費	233,000 円
2. 費用弁償	81,000 円
3. 職員旅費	30,000 円
4. 需用費その他	150,000 円
5. 使用料及び賃借料	120,000 円
合 計	614,000 円

経費区分	摘 要	積 算 内 訳	備 考 (詳しい取組内容など)
1. 報償費	委員謝金 講師謝金	@ 4,300 円 × 9 人 × 6 回 = 232,200 円 @ 12,000 円 × 1 人 × 1 回 = 12,000 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円	学校魅力強化委員会 講演会
244,200 円 245 (千円)			
2. 費用弁償	委員旅費 講師旅費	@ 1,500 円 × 9 人 × 6 回 = 81,000 円 @ 3,000 円 × 1 人 × 1 回 = 3,000 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円	学校魅力強化委員会 講演会
84,000 円 84 (千円)			
3. 職員旅費	県外中学校への説明会旅費	@ 2,500 円 × 1 人 × 6 回 = 15,000 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円	隣県の中学校へ説明に向くための旅費
15,000 円 15 (千円)			
4. 需用費その他	広報活動のための材料費 地域活動のための材料費	@ 90,000 円 × 1 式 × 1 回 = 90,000 円 @ 20,000 円 × 1 式 × 3 回 = 60,000 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円	
150,000 円 150 (千円)			
5. 使用料及び賃借料	ジャンボタクシー代 物品のレンタル 店舗等使用料	@ 5,000 円 × 1 往復 × 14 回 = 70,000 円 @ 20,000 円 × 1 式 × 1 回 = 20,000 円 @ 30,000 円 × 1 式 × 1 回 = 30,000 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円	活動時の生徒移動 店舗出店のテントレンタル イベント等への出店
120,000 円 120 (千円)			
6.		@ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円 @ 円 × × = 0 円	
0 円 0 (千円)			
合 計		613,200 円 614 (千円)	

※令和6年度予算額は、各学校から提出された所要額をもとに調整したものです。当該予算額の範囲内で作成をしてください。

※積算内訳の数値を入力する箇所は空欄にせず、入力値がない場合は1を入れてください。（計算式の都合上）

※必要に応じて行を追加してください。

月				5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事				体育祭			体験入学			文化祭（11/10,11）	ファッションショー （12/14）	課題研究発表会 ホームプロジェクト発表会		卒業式
魅力強化委員会 及び部会				第1回(5/8) 事業実施計画 学校評価	第2回（6/ ） 魅力化プロジェクト	第3回(7/) 魅力化プロジェクト 教科書選定			第4回 魅力化プロジェクト 学校評価中間評価		第5回 魅力化プロジェクト		第6回 魅力化プロジェクト 学校評価最終評価	
				連携機関	分類	主体								
地域連携事業	学校独自	+U	起業家入門Ⅱ 授業	佐賀ドレ販売 梅福、梅クッキー 梅ロンパン 施設訪問										
	夢つむぎネットワーク	+U×U	家庭クラブ 課題研究		牛尾山環境整備ボランティア & 梅収穫（6/1）				牛尾山環境整備ボランティア （10/26）				牛尾山環境整備ボランティア （2/22） 梅まつり（2/23）	
	津の里ミュージアム事務局	+U×U +U	課題研究 ボランティア			梅の商品開発 高校生ボランティアスタッフ								
	小城市	+U×U	調理部 課題研究 ボランティア ボランティア	国スポお弁当レシピ開発 たなだ部 包括連携に係る活動		市報へのレシピ提供		市報へのレシピ提供	市報へのレシピ提供	市報へのレシピ提供		市報へのレシピ提供	市報へのレシピ提供	
	地域の小中学校	+U	課題研究	小学校への出前授業										
	外部企業	×U	課題研究		ビアフェスタメニュー 開発（ロイヤルチェスター）									
	257（ニコナ）の会	×U	課題研究		ベビー服の作成 キワニスドールの作成									
	カラフル（子ども食堂）	+U	授業		調理及び学習支援 （第4土曜日）									
	小城市社会福祉協議会 牛津支所	+U	家庭クラブ								高齢者への季節だより			
	佐賀県	×U	課題研究	県民だよりレシピ提供 6月、10月、2月に掲載										
	外部講師	+U	授業	1－3食文化		3－3シュークリーム 3-3接遇マナー	3-2ディスプレイ甲子園 1-3そば講習		1-2 服飾作家の仕事 2-2 ドレーピング	1-2 デコレーター		1-2 和服の魅力		
広報活動	校外授業	+U	授業		1－3ランチ実習	2－3職場見学、 日本料理アールマナー 3－3西洋料理テーブルマナー 1年生 進路啓発研修							2－3中国料理テーブル マナー 1-3和菓子	
				HPの更新 YouTube等の情報発信 インスタグラム （随時）		S N S の発信支援事業 PR動画作成	県外中学校への説明会							

令和6年度 学校経営方針

校長 江頭かおり

1 基本的な考え方

OUR MISSION

地域に活力をもたらす存在であり続けること

OUR GOAL

生徒と共に、地域に愛される牛津高校を創り上げること

OUR ACTION

教育者としての高い使命感と深い愛情をもって、生徒の成長を支え、牛津高校の強みと魅力を磨き上げていく

<SAGA スクールミッション>

○県内唯一の家庭科教育専門校として、衣・食・ヒューマンサービスに関するスペシャリストを育成する。
 ○生活の質の向上に関する専門的知識や技能を生かし、地域と様々に協働しながら、学校及び地域の更なる活性化を目指す。

2 重点取組

① 互いを認め、支え、高め合う学びのサイクルの構築

→「つながり」を意識した教育活動の充実

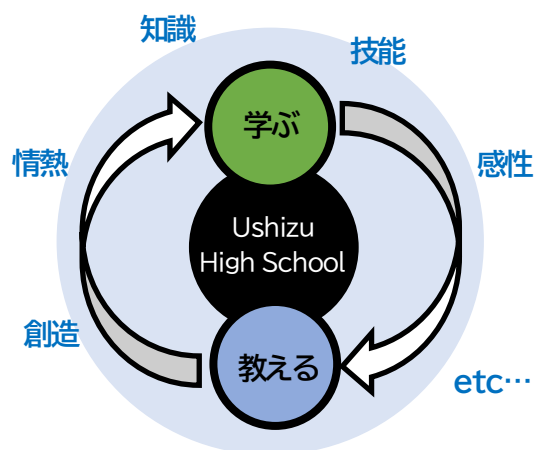
○探究活動

○地域の自然や子どもたちを守り育てる活動 等

② 生徒の主体性伸長の支援

→自ら考え、行動するチャンスを奪わない

○管理者とならない、教育のプロとしての「指導」と「支援」

○教科指導、部活動指導、生徒会活動、家庭クラブ活動、地域活性の活動、地域産業とのコラボレーション等において、「任せる」場面を作ること。

3 魅力あふれる学校づくりのために

前向きにチャレンジ

真摯に学び続ける

思いやりとチームワーク

つなぐ力・つながる力

共に、
その先へ

スクール・ミッション

- 県内唯一の家庭科教育専門校として、衣・食・ヒューマンサービスに関するスペシャリストを育成する。
- 生活の質の向上に関する専門的知識や技能を生かし、地域と様々に協働しながら、学校及び地域の更なる活性化を目指す。

「スクール・ポリシー（三つのポリシー）」

○グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- ①牛津高校で得た生活に関する専門的な知識と技能を、人々の豊かな暮らしの実現のために生かすことができる人材を輩出します。
- ②生活や社会の様々な問題解決に向けて、他者と支え合いながら考え行動する力を培います。
- ③地域社会の活性化に貢献するために必要な、主体性や表現力、創造力を育成します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成及び実施に関する方針）

- ① 3年間を通して、衣生活、食生活、ヒューマンサービスに関わるスペシャリストからの指導を受けることで実践力を養います。
- ② 学校設定科目である「起業家入門」では、地域企業等と連携して商品やサービスの開発をおこない、発想力や企画力、表現力を磨きます。
- ③「総合的な探究の時間」や「課題研究」において、地域と協働しながら、将来の自分の在り方・生き方を見据えた活動に取り組みます。
- ④ 職業人として必要なスキルや豊かな人間性を育むために、就業体験やボランティア活動を充実させます。
- ⑤ ファッションショーや音楽劇、食事（松花堂弁当等）や服飾作品（草木染や佐賀錦作品等）の販売など、日頃の学習の成果を地域に発信する機会を設けます。

○アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）

- ① 生活の営みに関することに興味があり、専門性の高い学びに取り組みたい生徒。
- ② 何事にも積極的に挑戦し、学び続ける意欲のある生徒。
- ③ 思いやりを持ち、他者や地域のために役に立つことをしたい生徒。

学校名		佐賀県立牛津高等学校		
1 前年度 評価結果の概要		・アンケート結果によると、生徒の社会性の高まりが確実にみられた。地域と連携した活動への取組を強化させたことが結果に結びついたと考える。次年度はこれらの活動をより深化させ、生徒の主体性伸長へとつなげたい。 ・地域と連携した活動は、生徒の地域への関心を確実に高めている。引き続き、参加する生徒の裾野を広げるとともに、地域の課題発見・解決について思考を深め地域活性化にさらに意欲的に取り組めるよう、行政機関等と連携しながら具体的活動を考えたい。 ・学校魅力強化委員会においては、本校の教育活動等について熱心に議論がなされた。次年度は、魅力強化のための具体的なプロジェクトチームを設定し運営していくスタイルも考えていきたい。		
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標		○県内唯一の家庭科専門校として、衣・食・ヒューマンサービスに関するスペシャリストを育成する。 ○生活の質の向上に関する専門的知識や技能を生かし、地域と様々な協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化を目指す。		
3 スクール・ポリシー		アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー		① 生活の営みに関することに興味があり、専門性の高い学びに取り組みたい生徒。 ② 何事にも積極的に挑戦し、学び続ける意欲のある生徒。 ③ 思いやりを持ち、他者や地域のために役に立つことをしたい生徒。	① 3年間を通して、衣生活、食生活、ヒューマンサービスに関わるスペシャリストからの指導を受けることで実践力を養います。 ② 学校設定科目である「起業家入門」では、地域企業等と連携して商品やサービスの開発をおこない、発想力や企画力、表現力を磨きます。 ③ 「総合的な探究の時間」や「課題研究」において、地域と協働しながら、将来の自分の在り方・生き方を見据えた活動に取り組みます。 ④ 職業人として必要なスキルや豊かな人間性を育むために、就業体験やボランティア活動を充実させます。 ⑤ ファッションショーや音楽劇、食事（松花堂弁当等）や服飾作品（草木染や佐賀錦作品等）の販売など、日頃の学習の成果を地域に発信する機会を設けます。	① 牛津高校で得た生活に関する専門的な知識と技能を、人々の豊かな暮らしの実現のために生かすことができる人材を輩出します。 ② 生活や社会の様々な問題解決に向けて、他者と支え合いながら考え行動する力を培います。 ③ 地域社会の活性化に貢献するために必要な、主体性や表現力、創造力を育成します。
4 本年度の重点目標		・ 互いを認め、支え、高めあう学びのサイクルの構築 ・ 生徒の主体性伸長の支援 ・ 生徒の進路希望実現につながる教育の質の向上 ・ 地域と様々な協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化		
5 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
重点取組				主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○アクティブラーニング型の授業やICT機器を活用した授業の推進による学習習慣の定着 ○基礎学力の向上 ○起業家マインドの育成	○アンケートで「学校で行われている授業で自分は主体的に取り組んでいる」「自分は、授業以外の学習や校外学習を主体的に行っている」「誰かにいわれなくても自分から学習する」と答えた生徒を80%以上にする。 ○学力診断テストの学習力レベルが前年度より向上する生徒を70%以上にする。 ○「起業家マインド(企画力、発想力、プレゼン能力など)が身につけている」と肯定的に答えた生徒65%以上	・教科や学科を超えての相互授業見学を実施する。 ・各科で「主体的・対話的な授業の実践」に向けて評価の観点を年度当初に確認し、互いの授業参観の機会を利用して授業の工夫や改善について考える機会を持つ。 ・「基礎力診断テスト」のデータを分析した情報を職員間で共有し、課題の指導を行う。 ・「ホームプロジェクト」「課題研究」「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」をはじめとしたすべての授業を通して起業家マインドの育成を図る。	教務 各教科・学科主任 進路指導主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校では豊かな心を育成する教育が行われていると答えた生徒90%以上 ○「他者を理解し、思いやりをもって人間関係を形成できた」の質問に対して「分からない」の回答率減	・性に関する指導、薬物乱用防止、佐賀を誇りに思う講演等を実施する。 ・生徒会等を中心にクラスで話し合う機会を学期1回実施する。	教務主任 保健指導主任 生徒支援部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見・早期対応に積極的に取り組んでいると回答する生徒・保護者の割合が70%以上。 ○いじめの一定期間内での解消100%。	・学校生活アンケートを年間2回実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行う。 ・問題が発生した場合は、迅速に対策会議を開催し、組織的な対応を行う。	教頭 学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○ほぼ毎日(週に5回以上)朝食を食べている生徒の割合を85%以上にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	保健指導主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。定時退勤日を週1日以上設定することや、長期休業中に学校閉庁日(4日以上)を設定すること。また、職員朝礼の短縮化(朝礼時間を5分程度とする)を実践する。部活動休養日については、原則週2日以上設定する。また、時間外在校等時間が45時間を超える職員数を、月平均10名以下にする。さらに、職員の平均年休取得日数を12日以上とする。	・定時退勤日を設定しやすいように、行事を精選する。 ・8月10日(土)から8月31日(土)までは、学校行事等を減らし、学校閉庁日等と併せて、休暇を取得しやすい環境を作る。 ・日報を充実させて、職員朝礼時の説明事項を削減する。 ・ICT利活用を推奨すると共に、業務や行事の見直しや、業務の平準化を行い、職員の業務負担を軽減する。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○特別支援教育に関する意識が向上したと回答した教員60%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	保健指導主任 特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★学校運営協議会の実践的な展開	★校内委員会を年度当初に開催し校内組織体制を整える。 ★コンソーシアムの運営規約の策定ができている。 ★令和7年度のプロジェクツの計画が立っている。	・校内組織委員会を開催し学校魅力強化委員会との連携を図る。 ・学校魅力強化委員会を年6回開催し、学校のプロジェクト実施に向けて協議するために、コンソーシアム的な働きを持つものに移行させる。	主幹教諭
	◎★地域と連携した教育プログラムの魅力化	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合90%以上 ★アンケートの『主体性に関わるウェルビーイング』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上、『社会性に関わる自己認識』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上 ★次年度より評価に利用する「育てたい力」を測るルーブリックの完成	・カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムをカリキュラム委員会で検討する。 ・「育てたい力」のルーブリックを作成する。 ・課題研究や起業家入門などの授業と地域をつなぎ生徒たちの活動を深化させる。 ・地域連携講座を実施し、起業家入門Ⅰの地域課題解決につながる流れを作る。 ・家庭クラブを中心に、夢つむぎネットワークと協働して牛尾山の活性化に取組み、2月末の梅まつりで各科の成果を示す。 ・ボランティア・スピリッツ・アワードへ応募する。	主幹教諭 家庭科主任 生徒支援
	★選ばれる学校に向けた県内外への情報発信	★志願者数を令和6年度選抜より10%増やす。 ★県外からの令和7年度入学者数を2名以上にする。	・学校紹介の動画を作成し、学校PRの資料を充実させる。 ・体験活動・地域連携活動を充実させ、中学生に情報発信を行う。 ・近隣の小中学校で生徒による家庭科の出前授業、授業補助を実施する。 ・全国募集に向けての準備として下宿先の確保に向けて動く。 ・食品調理科の授業の集団給食で外部の人に食べに来	主幹教諭 教務主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり				
6 総合評価・ 次年度への展望		・ ・ ・		